



CHAPTER 7

システム管理コマンド

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで使用できるシステム管理コマンドについて説明します。

abort (セッション)

現在のコンフィギュレーションセッションを廃棄するには、**abort** コマンドを使用します。

abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のコンフィギュレーションセッションを停止する例を示します。

```
switch# configure session MySession1
switch(config-s) # abort
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	セッションをコミットします。
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。
verify	セッションを検証します。

clear logging logfile

ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

clear logging logfile

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング ログファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルのメッセージを表示します。

clear logging nvram

NVRAM ログをクリアするには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

clear logging nvram

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NVRAM ログをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging nvram
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

clear logging onboard

永続ログの Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) エントリをクリアするには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

clear logging onboard [**environmental-history**] [**exception-log**] [**obfl-log**] [**stack-trace**]

構文の説明

environmental-history	(任意) OBFL 環境履歴をクリアします。
exception-log	(任意) OBFL 例外ログのエントリをクリアします。
obfl-log	(任意) OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) をクリアします。
stack-trace	(任意) OBFL スタック トレースのエントリをクリアします。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、OBFL 環境履歴のエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
```

次に、OBFL 例外ログのエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
```

次に、OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) のエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
```

次に、OBFL スタック トレースのエントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging onboard	オンボード失敗ログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションをクリアするには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のロギングセッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging session	ロギングセッションのステータスを表示します。

clear ntp session

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションをクリアするには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

clear ntp session

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、処理中の NTP Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch# clear ntp session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp	NTP 情報を表示します。

clear ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションをクリアするには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

```
clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}
```

構文の説明

all-peers	すべてのピア トランザクション統計情報をクリアします。
io	I/O 統計情報をクリアします。
local	ローカル統計情報をクリアします。
memory	メモリ統計情報をクリアします。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)NI(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP I/O 統計情報を廃棄する例を示します。

```
switch# clear ntp statistics io
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp	NTP 情報を表示します。

commit (セッション)

現在のコンフィギュレーション セッションをコミットするには、**commit** コマンドを使用します。

commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のセッションをコミットする例を示します。

```
switch(config-s)# commit  
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーション セッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。
verify	セッションを検証します。

diagnostic bootup level

デバイスの起動時に診断がトリガーされるようにブートアップ診断レベルを設定するには、**diagnostic bootup level** コマンドを使用します。ブートアップ診断レベルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

diagnostic bootup level {bypass | complete}

no diagnostic bootup level {bypass | complete}

構文の説明

bypass	すべてのブートアップ テストをスキップするように指定します。
complete	すべてのブートアップ診断を実行するように指定します。これがデフォルト値です。

コマンド デフォルト

complete

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、完全な診断を実行するようブートアップ診断レベルを設定する例を示します。

```
switch(config)# diagnostic bootup level complete
switch(config)#
```

次に、ブートアップ診断レベル設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no diagnostic bootup level complete
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic bootup level	起動時診断レベルを表示します。
show diagnostic bootup level	診断テストの結果を表示します。

ip access-list (セッション)

コンフィギュレーションセッション内に IPv4 Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) を作成するには、**ip access-list** コマンドを使用します。コンフィギュレーションセッションから ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip access-list *ACL-name*

no ip access-list *ACL-name*

構文の説明

<i>ACL-name</i>	IPv4 ACL の名前。名前には、最大 64 文字の英数字を指定できます。空白文字または引用符を含めることはできません。
-----------------	---

コマンドデフォルト

デフォルトでは、IPv4 ACL は定義されません。

コマンドモード

グローバル セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーションセッションに対し IPv4 ACL を作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession1
switch(config-s)# ip access-list myACL
switch(config-s-acl)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
deny	IPv4 ACL に拒否 (deny) ルールを設定します。
interface	
permit	IPv4 ACL に許可 (permit) ルールを設定します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。

ip port access-group (セッション)

IPv4 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をインターフェイスのポート ACL として適用するには、**ip port access-group** コマンドを使用します。インターフェイスから IPv4 ACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip port access-group access-list-name {in | out}
```

```
no ip port access-group access-list-name {in | out}
```

構文の説明

<i>access-list-name</i>	IPv4 ACL の名前。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
in	ACL を着信トラフィックに適用するように指定します。
out	ACL を発信トラフィックに適用するように指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 に対して、ip-acl-01 という IPv4 ACL をポート ACL として適用する例を示します。

```
switch# configure session MySession1
switch(config-s)# interface ethernet 1/2
switch(config-s-if)# ip port access-group ip-acl-01 in
switch(config-s-if)#
```

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 から、ip-acl-01 という IPv4 ACL を削除する例を示します。

```
switch(config-s)# interface ethernet 1/2
switch(config-s-if)# no ip port access-group ip-acl-01 in
switch(config-s-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show access-lists	すべての ACL を表示します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。

logging abort

Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定に加えられた変更を廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# logging abort
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。
show logging pending	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging commit

ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットするには、**logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバ設定の配布をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# commit
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

構文の説明

severity-level

(任意) 作成するメッセージログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。

- **0** : 緊急事態。システムは使用不能です。
- **1** : アラート。早急なアクションが必要です。
- **2** : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。
- **3** : エラー。エラー状態です。
- **4** : 警告。警告状態です。
- **5** : 通知。正常だが注意が必要な状態です。
- **6** : 情報。情報目的のメッセージだけです。
- **7** : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソールセッションで重大度 4（警告）以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。

logging distribute

Cisco Fabric Service (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

配布はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)#
```

次に、Syslog サーバ設定の配布をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no logging distribute
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。
logging commit	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する変更をコミットします。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。

logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

no logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

構文の説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。
default	ロギングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのロギング設定を使用します。
enable	ポート レベルの設定を上書きしてロギングをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング ステータスを表示します。

logging event port

インターフェイスのイベントをログに記録するには、**logging event port** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} [default]

no logging event port {link-status | trunk-status}

構文の説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。
default	(任意) ログイングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのログイング設定を使用します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# logging event port link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス コンフィギュレーション情報を表示します。
show logging	ログイング ステータスを表示します。

logging level

指定した重大度以上の定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level facility severity-level

no logging level facility severity-level

構文の説明

<i>facility</i>	適切なファシリティ。ファシリティについては、「システム メッセージ ロギング ファシリティ」(P.71) を参照してください。 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 all ファシリティを使用します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、重大度が 2 以上の AAA ファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging level aaa 2
```

■ logging level

関連コマンド

コマンド	説明
show logging level	ファシリティ ログング レベルの設定を表示します。

logging logfile

システム メッセージを格納するログ ファイルの名前、およびそのファイルへのログ記録の対象となる最小重大度を設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile *logfile-name severity-level* [**size bytes**]

no logging logfile [*logfile-name severity-level* [**size bytes**]]

構文の説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを格納するログ ファイルの名前を設定します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
<i>size bytes</i>	(任意) 最大ファイル サイズを指定します。デフォルトのファイル サイズは 4194304 バイトです。設定可能範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム メッセージを格納する **logfile** という名前のログ ファイルを設定し、その重大度を 4 に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging logfile logfile 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルを表示します。

logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
-----------------------	--

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

指定された重大度を設定、またはデフォルトを使用します。

例

次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging module
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging module	モジュール ロギング ステータスを表示します。

logging monitor

デバイスでモニタ（端末回線）のメッセージのログをイネーブ爾にするには、**logging monitor** コマンドを使用します。モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor [*severity-level*]

no logging monitor

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
-----------------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

この設定は、Telnet セッションと Secure Shell (SSH; セキュア シェル) に適用されます。

例

次に、モニタ ログ メッセージをイネーブ爾にする例を示します。

```
switch(config)# logging monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging monitor	モニタ ログ ステータスを表示します。

logging server

指定したホスト名または IPv4/IPv6 アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。リモート Syslog サーバをディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel
| local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog
| user | uucp} | use-vrf {vrf_name | management}]
```

```
no logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp |
kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news
| syslog | user | uucp} | use-vrf {vrf_name | management}]
```

構文の説明

<i>host</i>	リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレス。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急事態。システムは使用不能です。 • 1 : アラート。早急なアクションが必要です。 • 2 : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。 • 3 : エラー。エラー状態です。 • 4 : 警告。警告状態です。 • 5 : 通知。正常だが注意が必要な状態です。 • 6 : 情報。情報目的のメッセージだけです。 • 7 : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。
facility <i>facility</i>	(任意) 適切な発信ファシリティを定義します。ファシリティについては、 システム メッセージ ログイング ファシリティ を参照してください。 デフォルトの発信ファシリティは local7 です。
vrf <i>vrf_name</i>	(任意) リモート サーバで使用される Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
management	管理 VRF を指定します。これがデフォルトの VRF です。

コマンド デフォルト

デフォルトの発信ファシリティは **local7** です。
デフォルト VRF は **management** です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.1(3)N2(1)	use-vrf キーワードが追加されました。

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定された IPv4 アドレスにリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server 192.168.2.253
```

次に、指定されたホスト名のリモート Syslog サーバで、重大度 5 以上のメッセージがログに記録されるように設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server syslogA 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging server	設定済みの Syslog サーバを表示します。

logging timestamp

ロギング タイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。ロギング タイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

構文の説明

microseconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位をマイクロ秒に指定します。デフォルトの単位は seconds です。
milliseconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位をミリ秒に指定します。
seconds	ロギング タイムスタンプに使用する単位を秒に指定します。デフォルトの単位は seconds です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、単位は秒です。

例

次に、ロギング タイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging timestamp microseconds
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプの設定を表示します。

ntp

スイッチの Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアおよびサーバを設定するには、**ntp** コマンドを使用します。設定したピアおよびサーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp {peer hostname | server hostname} [prefer] [use-vrf vrf-name]
```

```
no ntp {peer hostname | server hostname}
```

構文の説明

peer hostname	NTP ピアのホスト名または IP アドレスを指定します。
server hostname	NTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
prefer	(任意) このピア/サーバを優先ピア/サーバとして指定します。
use-vrf vrf-name	(任意) このピア/サーバに到達するために使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N1(1)	キーワード use-vrf がキーワード vrf の代わりに使用されます。キーワード vrf は、下位互換性のために維持されます。

使用上のガイドライン

複数のピア アソシエーションを指定できます。

例

次に、サーバとのサーバ アソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp server ntp.cisco.com
```

次に、ピアとのピア アソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp peer 192.168.10.0
```

次に、ピアとのアソシエーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# no ntp peer 192.168.10.0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp abort

処理中の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**ntp abort** コマンドを使用します。

ntp abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、処理中の NTP CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# ntp abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp commit

ファブリックで処理中の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションについて、ペンディングの設定を適用するには、**ntp commit** コマンドを使用します。

ntp commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、変更をアクティブ NTP 設定にコミットする例を示します。

```
switch(config)# ntp commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp distribute

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**ntp distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp distribute

no ntp distribute

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイバ チャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**ntp commit** コマンドを使用して、一時的な設定変更をアクティブ設定にコミットする必要があります。

例

次に、アクティブ NTP 設定をファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# ntp distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp commit	NTP 設定の変更をアクティブ設定にコミットします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp sync-retry

設定した Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバとの同期化を再試行するには、**ntp sync-retry** コマンドを使用します。

ntp sync-retry

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定した NTP サーバとの同期化を再試行する例を示します。

```
switch# ntp sync-retry
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

show diagnostic bootup level

スイッチ上の現在のブートアップ診断レベルを表示するには、**show diagnostic bootup level** コマンドを使用します。

show diagnostic bootup level

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のブートアップ診断レベルを表示する例を示します。

```
switch# show diagnostic bootup level

Current bootup diagnostic level: complete

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic bootup level	より高速なモジュールのブートアップ時間に対するブートアップ診断レベルを設定します。
show diagnostic result	診断テストの結果を表示します。

show diagnostic result

診断テストの結果を表示するには、**show diagnostic result** コマンドを使用します。

show diagnostic result module {*module-no* | **all**}

構文の説明

module	診断結果が表示されるモジュールを指定します。
<i>module-no</i>	モジュール番号。有効な値は 1 ～ 3 です。
all	すべてのモジュールの診断結果を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、指定したモジュールの診断結果を表示する例を示します。

```
switch# show diagnostic result module 1

Current bootup diagnostic level: complete

Module 1: 48X10GE/Supervisor SerialNo : JAF1339ANGH

Overall Diagnostic Result for Module 1 : PASS
Diagnostic level at card bootup: complete

Test results: (. = Pass, F = Fail, I = Incomplete,
              U = Untested, A = Abort)

  1) TestUSBFlash -----> .
  2) TestSPROM -----> .
  3) TestPCIE -----> .
  4) TestLED -----> .
  5) TestOBFL -----> .
  6) TestNVRAM -----> .
  7) TestPowerSupply -----> F
  8) TestTemperatureSensor -----> .
  9) TestFan -----> .
 10) TestVoltage -----> .
 11) TestGPIO -----> .
 12) TestInbandPort -----> .
 13) TestManagementPort -----> .
 14) TestMemory -----> .
 15) TestFabricEngine :

Eth   1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
      .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .  .
```

show diagnostic result

```
Eth  25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
. . . . .
```

16) TestFabricPort :

```
Eth   1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
. . . . .
```

```
Eth  25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
. . . . .
```

17) TestForwardingEngine :

```
Eth   1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
. . . . .
```

```
Eth  25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
. . . . .
```

18) TestForwardingEnginePort :

```
Eth   1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
. . . . .
```

```
Eth  25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
. . . . .
```

19) TestFrontPort :

```
Eth   1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
Port -----
. . . . .
```

```
Eth  25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
Port -----
. . . . .
```

switch#

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic bootup level	より高速なモジュールのブートアップ時間に対するブートアップ診断レベルを設定します。
show diagnostic bootup level	起動時診断レベルを表示します。

show logging console

コンソール ロギングの設定を表示するには、**show logging console** コマンドを使用します。

show logging console

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソール ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソールへのロギングを設定します。

show logging info

ロギングの設定を表示するには、**show logging info** コマンドを使用します。

show logging info

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging info
```

show logging last

ログ ファイルの末尾から指定数の行を表示するには、**show logging last** コマンドを使用します。

show logging last *number*

構文の説明

number 表示する行数を 1 ～ 9999 の範囲で入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ログ ファイルの最後の 42 行を表示する例を示します。

```
switch# show logging last 42
```

show logging level

ファシリティ ログイング重大度の設定を表示するには、**show logging level** コマンドを使用します。

show logging level [*facility*]

構文の説明

facility (任意) 適切なログイング ファシリティ。ファシリティについては、[システムメッセージ ログイング ファシリティ](#)を参照してください。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、EtherChannel ログイング重大度の設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging level port-channel
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging level	ファシリティ ログイング レベルを設定します。

show logging logfile

入力した範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示するには、**show logging logfile** コマンドを使用します。

```
show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd
hh:mm:ss]
```

構文の説明

start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss	(任意) 開始時間を yyyy mmm dd hh:mm:ss の形式で指定します。月 (mmm) フィールドに 3 文字を、年 (yyyy)、日 (dd) フィールドに数字を、および時刻 (hh:mm:ss) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。
end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss	(任意) 終了時間を yyyy mmm dd hh:mm:ss の形式で指定します。月 (mmm) フィールドに 3 文字を、年 (yyyy)、日 (dd) フィールドに数字を、および時刻 (hh:mm:ss) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。

例

次に、示されている範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging logfile start-time 2008 mar 11 12:10:00
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging logfile	ログ ファイルへのロギングを設定します。

show logging module

モジュール ロギングの設定を表示するには、**show logging module** コマンドを使用します。

show logging module

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モジュール ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging module
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging module	モジュール ロギングを設定します。

show logging monitor

モニタ ロギングの設定を表示するには、**show logging monitor** コマンドを使用します。

show logging monitor

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モニタ ロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging monitor	モニタにロギングを設定します。

show logging nvram

Nonvolatile Random Access Memory (NVRAM; 不揮発性 RAM) ログのメッセージを表示するには、**show logging nvram** コマンドを使用します。

show logging nvram [*last number-lines*]

構文の説明

last number-lines (任意) 表示する行数を入力します。1 ~ 100 の範囲で指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NVRAM ログの最後の 20 のメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging nvram last 20
```

show logging onboard

エラーのタイプに基づいてオンボード ログング情報を表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。

```
show logging onboard {boot-uptime | device-version | endtime | environmental-history
| exception-log | kernel-trace | obfl-history | obfl-logs | stack-trace | starttime |
status} [> file | | type]
```

構文の説明

boot-uptime	Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ログング) ブートと動作時間情報を表示します。
device-version	OBFL デバイスのバージョン情報を表示します。
endtime	<i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> 形式で指定された終了時刻までの OBFL ログを表示します。
environmental-history	OBFL 環境履歴を表示します。
exception-log	OBFL 例外ログを表示します。
kernel-trace	OBFL カーネル トレース情報を表示します。
obfl-history	OBFL 履歴情報を表示します。
obfl-logs	OBFL テクニカル サポート ログ情報を表示します。
stack-trace	OBFL カーネル スタック トレース情報を表示します。
starttime	<i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> 形式で指定された開始時刻からの OBFL ログを表示します。
status	OBFL ステータスがイネーブルであるかディセーブルであるかを表示します。
> <i>file</i>	(任意) 出力をファイルにリダイレクトします。詳細情報については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<i>type</i>	(任意) 出力にフィルタを適用します。詳細情報については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

starttime および **endtime** キーワードの日付と時刻の引数は、月/日/年 (*mm/dd/yy*) として入力し、時刻がハイフンの後に 24 時間形式で時間 : 分 : 秒 (*HH:MM:SS*) で続きます。たとえば、次のように入力します。

- **starttime** 03/17/08-15:01:57
- **endtime** 03/18/08-15:04:57

file の有効値は、次のとおりです。

- **bootflash:**
- **ftp:**
- **scp:**
- **sftp:**
- **tftp:**
- **volatile:**

type の有効値は、次のとおりです。

- **begin [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行で始まります。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **count [> file || type]** : 一致する行をカウントします。
- **egrep | grep print-match** : Egrep または Grep です。Egrep は、Grep よりも高度な正規表現の構文を使用して、一致するテキストの行を検索します。Grep は 1 つ以上の正規表現に一致するテキストの行を検索し、一致する行だけを出力します。
 - **-A num** : すべての一致行の後に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲は、1 ~ 999 です。
 - **-B num** : すべての一致行の前に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲は、1 ~ 999 です。
 - **-c** : 一致行の合計数だけを出力します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-n** : 各行番号の後にそれぞれの一致内容を出力します。
 - **-v** : *word* 引数に一致するものがない行だけを出力します。
 - **-w** : 語が完全に一致する行だけを出力します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **exclude [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を除外します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **head [-n num]** : ストリーム エディタ。オプションの **-n num** キーワードと引数を使用すると、出力する行数を指定できます。有効な範囲は、0 ~ 2147483647 です。
- **include [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を含めます。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **last [num]** : 出力する最後の行を表示します。オプションの *num* で、出力する行数を指定します。有効な範囲は、0 ~ 9999 です。

- **less [-E | -d]** : ファイルの最後で終了します。
 - **-E** : (任意) ファイルの最後で終了します。
 - **-d** : (任意) ダム ターミナルを指定します。
- **no-more** : コマンド出力の割り付けをオフにします。
- **sed command** : ストリーム エディタ
- **wc** : 語、行、文字数をカウントします。
 - **-c** : (任意) 出力する文字数を指定します。
 - **-l** : (任意) 出力する行数を指定します。
 - **-w** : (任意) 出力する語数を指定します。
 - **>** : ファイルにリダイレクトします。
 - **|** : フィルタにコマンド出力をパイプします。

このコマンドを使用すると、システム ハードウェアから OBFL データを表示できます。OBFL 機能はデフォルトでイネーブルになっており、Cisco ルータまたはスイッチにインストールされているハードウェア カードまたはモジュールの問題の診断に役立つ動作温度、ハードウェア動作時間、中断、その他の重要なイベントとメッセージを記録します。データのログは、不揮発性メモリに格納されるファイルに作成されます。オンボード ハードウェアが起動すると、監視されている各領域で最初のレコードが作成され、後続のレコードの基準値となります。

OBFL 機能は、継続的なレコードの収集と古い（履歴）レコードのアーカイブで循環更新スキームを提供し、システムに関する正確なデータを保証します。データは、測定と継続ファイルのサンプルのスナップショットを表示する継続情報の形式、または収集したデータに関する詳細を提供する要約情報の形式のいずれかで記録されます。履歴データが利用できない場合は、「No historical data to display」というメッセージが表示されます。

例

次に、OBFL ブートと動作時間情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard boot-uptime
Sun Nov  9 06:11:59 2008:  Boot Record
-----
Boot Time.....: Sun Nov  9 06:11:58 2008
Slot Number.....: 1
Serial Number.....: FLC12280050
Bios Version.....: v1.2.0(06/19/08)
Firmware Version...: 4.0(1a)N1(1) [build 4.0(1a)N1(1)]
```

表 7-1 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 7-1 show logging onboard boot-uptime コマンドの出力

フィールド	説明
Boot Time	ブートが発生した時刻
Slot Number	スロット番号
Serial Number	モジュールのシリアル番号
Bios Version	プライマリ Binary Input and Output System (BIOS) のバージョン
Firmware Version	ファームウェアのバージョン

■ show logging onboard

次に、OBFL ログイン デバイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard device-version
-----
OBFL Data for
  Module: 1
-----

Device Version Record
-----
Timestamp                Device Name      Instance Hardware Software
                          Num      Version  Version
-----
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           2          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           3          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           4          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           5          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           6          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           7          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           8          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           9          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          10          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          11          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          12          2          0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          13          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  ALTOS           0          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           0          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           1          2          0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           2          2          0
```

表 7-2 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 7-2 show logging onboard device-version コマンドの出力

フィールド	説明
Timestamp	曜日、日付、時刻
Device Name	デバイス名
Instance Num	インスタンス数
Hardware Version	ハードウェア デバイスのバージョン
Software Version	ソフトウェア デバイスのバージョン

次に、OBFL 履歴情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard obfl-history
```

show logging onboard obfl-history コマンドは、次の情報を表示します。

- OBFL が手動でディセーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL が手動でイネーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL データが手動でクリアにされたときのタイムスタンプ

次に、OBFL カーネル スタック トレース情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard stack-trace
```

show logging onboard stack-trace コマンドは、次の情報を表示します。

- 秒単位の時間

- ミリ秒単位の時間
- エラーを説明する文字列
- 現在のプロセス名と ID
- カーネル ジフィー
- スタック トレース

関連コマンド

clear logging onboard	永続ログの OBFL エントリをクリアします。
hw-module logging onboard	エラーのタイプに基づいて OBFL エントリをイネーブルまたはディセーブルにします。

show logging pending

Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を表示するには、**show logging pending** コマンドを使用します。

show logging pending

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を表示する例を示します。

```
switch# show logging pending
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。

show logging pending-diff

Syslog サーバの現在の設定と保留中の変更との差異を表示するには、**show logging pending-diff** コマンドを使用します。

show logging pending-diff

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの現在の設定と保留中の変更との差異を表示する例を示します。

```
switch# show logging pending-diff
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。

show logging session status

ロギングセッションステータスを表示するには、**show logging session status** コマンドを使用します。

show logging session status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギングセッションステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging session status
```

show logging server

Syslog サーバの設定を表示するには、**show logging server** コマンドを使用します。

show logging server

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging server
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging server	リモート Syslog サーバを設定します。

show logging status

ロギング ステータスを表示するには、**show logging status** コマンドを使用します。

show logging status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging status
Fabric Distribute      : Enabled
Session State         : IDLE
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging distribute	Cisco Fabric Service (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。

show logging timestamp

ロギング タイムスタンプの設定を表示するには、**show logging timestamp** コマンドを使用します。

show logging timestamp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング タイムスタンプの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging timestamp
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging timestamp	ロギング タイムスタンプの細かさを設定します。

show ntp peer-status

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアのステータスを表示するには、**show ntp peer-status** コマンドを使用します。

show ntp peer-status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP のピア ステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peer-status
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

show ntp peers

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) ピアに関する情報を表示するには、**show ntp peers** コマンドを使用します。

show ntp peers

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP ピアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peers
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peer-status	NTP ピアに関するステータス情報を表示します。

show ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の統計情報を表示するには、**show ntp statistics** コマンドを使用します。

```
show ntp statistics {io | local | memory | peer} {ipaddr address | name name1 [..nameN]}
```

構文の説明

io	入出力統計情報を表示します。
local	ローカル NTP により保持されているカウンタを表示します。
memory	メモリ コードに関連する統計カウンタを表示します。
peer	ピアのピア単位の統計カウンタを表示します。
ipaddr address	設定した IPv4 または IPv6 アドレスのピアの統計情報を表示します。IPv4 アドレスの形式は、ドット付き 10 進数 x.x.x.x です。IPv6 アドレスの形式は、16 進数 A:B::C:D です。
name name1	指定したピアの統計情報を表示します。
..nameN	(任意) 1 つ以上の指定ピアの統計情報を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP の統計情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp statistics local
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ntp statistics	NTP 統計情報をクリアします。

show ntp timestamp-status

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) タイムスタンプ情報を表示するには、**show ntp timestamp-status** コマンドを使用します。

show ntp timestamp-status

構文の説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、NTP タイムスタンプのステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp timestamp-status
```

show snmp community

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コミュニティ ストリングを表示するには、**show snmp community** コマンドを使用します。

show snmp community

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP コミュニティ ストリングを表示する例を示します。

```
switch# show snmp community
Community          Group / Access      context  acl_filter
-----          -
public            network-admin
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server community	SNMP プロトコルへのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。

show snmp context

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コンテキストを表示するには、**show snmp context** コマンドを使用します。

show snmp context

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP コンテキストを表示する例を示します。

```
switch# show snmp context
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server context	SNMP コンテキストを設定します。

show snmp engineID

ローカルの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) エンジンの ID を表示するには、**show snmp engineID** コマンドを使用します。

show snmp engineID

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP エンジンには、ローカルまたはリモート デバイスに常駐できる SNMP のコピーです。SNMP パスワードは、権威 SNMP エンジンの SNMP ID を使用してローカライズされます。

例

次に、SNMP エンジン ID を表示する例を示します。

```
switch# show snmp engineID
Local SNMP engineID: [Hex] 8000000903000DECB230C0
                    [Dec] 128:000:000:009:003:000:013:236:178:048:192
switch#
```

show snmp group

スイッチに設定されている Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) グループの名前を表示するには、**show snmp group** コマンドを使用します。

show snmp group

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP グループを表示する例を示します。

```
switch# show snmp group

Role: network-admin
Description: Predefined network admin role has access to all commands
on the switch
-----
Rule      Perm    Type      Scope      Entity
-----
1         permit  read-write

Role: network-operator
Description: Predefined network operator role has access to all read
commands on the switch
-----
Rule      Perm    Type      Scope      Entity
-----
1         permit  read

Role: vdc-admin
Description: Predefined vdc admin role has access to all commands within
a VDC instance
-----
Rule      Perm    Type      Scope      Entity
-----
1         permit  read-write

Role: vdc-operator
Description: Predefined vdc operator role has access to all read commands
within a VDC instance
-----
Rule      Perm    Type      Scope      Entity
-----
1         permit  read
```

■ show snmp group

```

Role: priv-3
  Description: This is a system defined privilege role.
  vsan policy: permit (default)
  Vlan policy: permit (default)
  Interface policy: permit (default)
  Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-2
  Description: This is a system defined privilege role.
  vsan policy: permit (default)
  Vlan policy: permit (default)
  Interface policy: permit (default)
  Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-1
  Description: This is a system defined privilege role.
  vsan policy: permit (default)
  Vlan policy: permit (default)
  Interface policy: permit (default)
  Vrf policy: permit (default)

```

```

Role: priv-0
  Description: This is a system defined privilege role.
  vsan policy: permit (default)
  Vlan policy: permit (default)
  Interface policy: permit (default)
  Vrf policy: permit (default)

```

Rule	Perm	Type	Scope	Entity
10	permit	command		traceroute6 *
9	permit	command		traceroute *
8	permit	command		telnet6 *
7	permit	command		telnet *
6	permit	command		ping6 *
5	permit	command		ping *
4	permit	command		ssh6 *
3	permit	command		ssh *
2	permit	command		enable *
1	permit	read		

```

Role: priv-15
  Description: This is a system defined privilege role.
  vsan policy: permit (default)
  Vlan policy: permit (default)
  Interface policy: permit (default)
  Vrf policy: permit (default)

```

Rule	Perm	Type	Scope	Entity
1	permit	read-write		

```
switch#
```


show snmp host

Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) ホスト情報を表示するには、**show snmp host** コマンドを使用します。

show snmp host

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP ホストを表示する例を示します。

```
switch# show snmp host
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	SNMP ホストを設定します。

show snmp sessions

現在の Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) セッションを表示するには、**show snmp sessions** コマンドを使用します。

show snmp sessions

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP セッションを表示する例を示します。

```
switch# show snmp sessions
```

show snmp trap

Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) リンク トラップ生成情報を表示するには、**show snmp trap** コマンドを使用します。

show snmp trap

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、SNMP トラップを表示する例を示します。

```
switch# show snmp trap
```

Trap type	Description	Enabled
entity	: entity_mib_change	Yes
entity	: entity_module_status_change	Yes
entity	: entity_power_status_change	Yes
entity	: entity_module_inserted	Yes
entity	: entity_module_removed	Yes
entity	: entity_unrecognised_module	Yes
entity	: entity_fan_status_change	Yes
link	: linkDown	Yes
link	: linkUp	Yes
link	: IETF-extended-linkDown	Yes
link	: IETF-extended-linkUp	Yes
link	: cisco-extended-linkDown	Yes
link	: cisco-extended-linkUp	Yes
callhome	: event-notify	No
callhome	: smtp-send-fail	No
cfs	: state-change-notif	No
cfs	: merge-failure	No
rf	: redundancy_framework	Yes
aaa	: server-state-change	No
license	: notify-license-expiry	Yes
license	: notify-no-license-for-feature	Yes
license	: notify-licensefile-missing	Yes
license	: notify-license-expiry-warning	Yes
zone	: unsupp-mem	No
upgrade	: UpgradeOpNotifyOnCompletion	Yes
upgrade	: UpgradeJobStatusNotify	Yes
feature-control	: FeatureOpStatusChange	No
sysmgr	: cseFailSwCoreNotifyExtended	No
rmon	: risingAlarm	No

■ show snmp trap

```

rmon          : fallingAlarm          No
rmon          : hcRisingAlarm         No
rmon          : hcFallingAlarm        No
config        : ccmCLIRunningConfigChanged No
snmp          : authentication        No
bridge        : topologychange        No
bridge        : newroot                No
stp           : inconsistency          No
stp           : loop-inconsistency     No
stp           : root-inconsistency     No
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp trap link-status	SNMP リンク トラップの生成をイネーブルにします。

snmp-server community

SNMPv1 または SNMPv2c の Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) コミュニティを作成するには、**snmp-server community** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
snmp-server community com-name [group grp-name | ro | rw | use-acl acl-name]
```

```
no snmp-server community com-name [group grp-name | ro | rw | use-acl acl-name]
```

構文の説明

com-name	SNMP コミュニティ ストリング。名前は、最大 32 文字の英数字で指定できます。
group grp-name	(任意) コミュニティが属するグループを指定します。名前は、最大 32 文字まで指定できます。
ro	(任意) このコミュニティ ストリングで読み取り専用アクセスを指定します。
rw	(任意) このコミュニティ ストリングで読み取りと書き込みアクセスを指定します。
use-acl acl-name	(任意) Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) を指定して、SNMP 要求にフィルタを適用します。名前は、最大 32 文字まで指定できます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をコミュニティに割り当てて、着信 SNMP 要求にフィルタを適用できます。割り当てた ACL により着信要求パケットが許可される場合、SNMP はその要求を処理します。ACL により要求が拒否される場合、SNMP はその要求を廃棄して、システム メッセージを送信します。

ACL の作成の詳細については、『Cisco Nexus 5000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。ACL は、UDP および TCP を介する IPv4 および IPv6 の両方に適用されます。ACL を作成したら、ACL を SNMP コミュニティに割り当てます。

例

次に、SNMP コミュニティ ストリングを作成し、ACL をコミュニティに割り当て、SNMP 要求にフィルタを適用する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server community public use-acl my_acl_for_public
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show snmp community</code>	SNMP コミュニティ スtring を表示します。

システム メッセージ ログイング ファシリティ

表 7-3 に、システム メッセージ ログイング コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 7-3 システム メッセージ ログイング ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	aaa Syslog メッセージのレベルを設定します。
aclmgr	aclmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
adjmgr	隣接マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
afm	afm Syslog メッセージのレベルを設定します。
all	すべてのファシリティのレベルを設定します。
altos	Syslog レベルを割り当てます。
arp	ARP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
auth	許可システムのレベルを設定します。
authpriv	許可（プライベート）システムのレベルを設定します。
bootvar	bootvar のレベルを設定します。
callhome	Callhome Syslog レベル。
capability	mig utils デーモンの Syslog レベルを設定します。
cdp	CDP のログイングのレベルを設定します。
cert-enroll	Cert-enroll Syslog レベル。
cfs	CFS のログイングのレベルを設定します。
clis	CLIS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
core	コア デーモン Syslog レベル。
cron	Cron/ ファシリティのレベルを設定します。
daemon	システム デーモンのレベルを設定します。
dcbx	dcx Syslog メッセージのレベルを設定します。
device-alias	デバイス エイリアス分配サービスの Syslog レベルを設定します。
dstats	delta 統計情報 Syslog レベル。
epp	EPP Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpc	ethpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpm	ethpm Syslog メッセージのレベルを設定します。
evmc	evmc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fabric_start_cfg_mgr	Fabric start cfg mgr syslog レベル。
fc2d	fc2d Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcdomain	fcdomain Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcns	ネーム サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
fcpc	fcpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcs	FCS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
fdmi	fdmi のログイングのレベルを設定します。
feature-mgr	機能マネージャの Syslog レベル。

表 7-3 システムメッセージロギングファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
flogi	flogi Syslog メッセージのレベルを設定します。
fs-daemon	FS daemon Syslog レベル。
fspf	FSPF Syslog レベル。
ftp	ファイル転送システムのレベルを設定します。
fwm	fwm Syslog メッセージのレベルを設定します。
gatos	Gatos Syslog レベル。
im	im Syslog メッセージのレベルを設定します。
kernel	カーネルのレベルを設定します。
l3vm	L3VM の Syslog フィルタ レベルを設定します。
license	ライセンス システム Syslog レベル。
local0	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local1	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local2	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local3	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local4	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local5	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local6	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local7	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
lpr	ライン プリンタ システムのレベルを設定します。
mail	メール システムのレベルを設定します。
monitor	イーサネット スパン Syslog メッセージのレベルを設定します。
news	USENET ニュースのレベルを設定します。
nohms	nohms Syslog メッセージのレベルを設定します。
nqosm	nqosm Syslog メッセージのレベルを設定します。
ntp	NTP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
pfm	pfm Syslog メッセージのレベルを設定します。
pktmgr	パケット マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
plugin	plugin Syslog メッセージのレベルを設定します。
port	port Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-channel	EtherChannel Syslog メッセージのレベルを設定します。
qd	qd Syslog メッセージのレベルを設定します。
radius	RADIUS Syslog レベル。
rdl	RDL のロギングのレベルを設定します。
res_mgr	res_mgr メッセージのレベルを設定します。
rib	rib のレベルを設定します。
rlir	RLIR のレベルを設定します。
rscn	RSCN のレベルを設定します。
san-port-channel	san-port-channel syslog メッセージのレベルを設定します。

表 7-3 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
scsi-target	SCSI ターゲット デーモン Syslog レベル。
security	セキュリティ Syslog レベル。
session	セッション マネージャ Syslog メッセージのレベルを設定します。
sifmgr	sifmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
spanning-tree	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
stp	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
syslog	内部 Syslog メッセージのレベルを設定します。
sysmgr	システム マネージャの Syslog レベル。
tcpudp	TCPUDP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
track	トラック Syslog メッセージのレベルを設定します。
urib	URIB の Syslog フィルタ レベルを設定します。
user	ユーザ プロセスのレベルを設定します。
uucp	UNIX-to-UNIX コピー システムのレベルを設定します。
vlan_mgr	VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
vmm	vmm Syslog メッセージのレベルを設定します。
vsan	VSAN Syslog レベル。
vshd	vshd のログイングのレベルを設定します。
wwnm	WWN マネージャの Syslog レベルを設定します。
xml	XML エージェント Syslog レベル。
zone	ゾーン サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
zschk	zschk Syslog メッセージのレベルを設定します。

verify (セッション)

現在のコンフィギュレーションセッションを検証するには、**verify** コマンドを使用します。

verify

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、セッションを検証する例を示します。

```
switch(config-s)# verify
Failed to start Verification: Session Database already locked, Verify/Commit in
Progress.
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	セッションをコミットします。
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。
show configuration session	セッションの内容を表示します。